



おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信 12月号)

「 保育の質を高める 」



Senrihijiri Kindergarten

せんりひじり幼稚園
副園長 安達 かえで

先週は「公開保育」の実施にご協力いただきありがとうございました。全国から150名もの方々がお越しくださいました。今回の「公開保育」はECEQコーディネーターの養成を兼ねていました。ECEQとはEarly Childhood Education Quality Systemの略で、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が行う幼稚園・認定こども園における「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」で、普段通りの保育場を他園の保育者が見学して、公開保育の保育者と意見交換をしながら、自分たちだけではわからなかった自園の良さや課題を見つけていきます。またその過程において園内のコミュニケーションを活性化し、同僚性を高める手法を学びます。自分たちでは気付かないことを気付かせてもらえるという点で「公開保育」は、自園のことを見つめ直し進化していける最も効果的な研修方法だと思います。(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が、コーディネーターを養成し始めて5年。そのコーディネーターが学びの道案内をしてくれることとなります。今回はそのコーディネーターの実践研修として、うちの園を学びの場として提供したことにもなります。コーディネーターの先生方に、「レベルの高いせんりひじりの保育をさらに高めるのは難しいなあ」とか「ひじりの先生方が、ファシリテートが上手いからやりにくいなあ〜」などと言われながら、午前の公開保育に引き続き、午後から振り返りの会に参加しました。新たにやってみたいなと思うことも見つかりましたし、お褒めの言葉もたくさんいただきました。

目の前の子どもたちの姿や育ちを見て関わりや環境のあり方などを考えていくので、マニュアルはなく、みんなで方向性を確かめながら計画していくことが必要です。直感的に応答的に子どもに関わっている日々の保育と、その意味を考え専門的な知識を元に子どもを理解し育ちの先を見据えていくことは保育の質を高めていくのに必要なことでもあります。

園長は、全国の研究委員長をしていたときにこのコーディネーターの養成を始めるなど、自園だけでなく、全国の幼稚園やこども園の保育の質を向上させるために全国あちこちに研修会の講師として行っていますが、そのおかげで、私たちも本当によく学ぶ機会をもらえます。うちの先生たちはノリがよく、学びに対してどん欲です。「脳が筋肉疲労〜!!」とか言いながら心地いい疲労感を残して公開保育を終えました。こんな大人数の公開保育は聞いたことがなく、準備やおもてなしをしてくれた事務の先生方のチームワークや手際の良さにも頭が下がります。姉妹園のひじりひがしの先生方のお手伝いもありがたく 様々な方のおかげで、自分たちの学びが支えられていることを実感します。そして、子どもをまんやかにした保育の良さを理解し、共に支えてくださっている保護者の存在も話題に上がりました。

子どもを育てるには、親だけでなく担任だけでなく、周りには様々な人が、様々な形でその子の育ちにチームとして関わっていくことが必要です。これからもチームひじりは子どもをまん中に、子どもの幸せな育ちのために学び続けていきたいと思ひます。

.....
(おひざのうえで12月号) ご意見や感想があれば是非お書き下さい

(組) ()